【授業科目】医動物学　Medical Parasitology

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
大島 茂	1 年次 後 期	必 修	1	15	講義	なし	巻末掲載	可

授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／医動物学においては微生物学で取り扱わないものの、人の健康に関与する生物について講義する。具体的には自然界に存在し、人への寄生が疾患に結びつく寄生虫の種類、感染の様式、病態などを解説する。近年、本邦においては寄生虫症の重要性は相対的に減少しているように思われるが、いまだに食事を介した寄生虫感染症は本邦を含む先進国でも存在する。また海外との交流が一般的になるにつれ、輸入感染症の増加が問題となっている。これら人体寄生虫についての検査・診断に必要な知識と技術を教授する。 課題に対するフィードバック方法／提出された小テストについて講義内で解説する。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	①病原体である寄生虫および衛生昆虫について、それらの一般的な性状、個々の病原体の生態、感染経路、寄生態様が説明できる。 ②宿主側の反応と症状、宿主寄生体関係と感染の経過、診断法および感染防御対策が説明できる。 ③寄生虫症の臨床検査を行う際に必要な寄生虫感染症に対する知識、臨床検査手技を習得し説明できる。
時間外学習に必要な 学修内容および 学習上の助言	授業の前にはシラバスに記載された授業計画の該当箇所を予習し、授業後には復習をおこなうこと。医動物学では寄生虫などの名称からその性状、生態、感染経路等、記憶する事柄が多いので、繰り返し学修することが必要となる。 ※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。 詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第 1 回　医動物学総論　（寄生虫疾患の流行の現状と特徴、その背景） 第 2 回　線形動物（線虫）：腸管寄生線虫症、臓器・組織寄生線虫症など 第 3 回　扁形動物（吸虫）：住血吸虫症、肺吸虫症など 第 4 回　扁形動物 （条虫）：腸管寄生条虫症、幼虫寄生条虫症 第 5 回　原生動物(1)：原虫総論、アメーバ赤痢、ランブル鞭毛虫症、クリプトスポリジウム症、膣トリコモナス症 第 6 回　原生動物(2)：マラリア，トキソプラズマ症，トリパノソーマ症、リーシュマニア症 第 7 回　衛生動物学；ダニ、シラミ、蛇毒、衛生昆虫 第 8 回　検査法総論：寄生虫検査法 全て大島
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 講義ごとの小テスト　30%　学期末試験　　70%　授業態度も加味する
教科書	医動物学　吉田幸雄 著（南山堂）　　参考書等　なし
学生への メッセージ	教科書や講義に用いた配付資料等を復習し、要点をノートにまとめること。特に繰り返し復習する必要があります。また、授業の行われたその日のうちに復習することが大切です。